

# 花ノ木

第 109 号

令和 3 年 1 月 24 日

花ノ木医療  
福祉センター

電話 0771-23-0701

FAX 0771-22-8348

## 基礎固めの年に

### ―地域社会と共感をⅡ―

社会福祉法人花ノ木

理事長 山内 一



明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

昨年は新型コロナウイルス感染防止対策で緊張に終始した一年だったかと思

ます。新しい生活様式が叫ばれたところでもありました。

自粛で始まった新年ですが、新型コロナウイルスとの戦いが終わったわけではなく、今しばらくは緊張が続くのを耐えねばなりませんのでよろしくお願いたします。

しかし、自粛といえども巣籠もりして何もしなくていいというわけではありません。障害児者福祉に足踏みは無いのです。昨年、初心に戻って福祉の原点を見つめてほしいとこの新年号にてお願いしたところですが、今年は見つめ直された視点で、その姿を形にすべく取り組みを進めていただきたいと思います。

新型コロナウイルス対策で一年後ろ倒しとなりましたが、今年を基礎固めの年として、入所児者の居住環境整備の計画づく

りを優先して進めて頂くと共に、副題を2年続けて「―地域社会と共感を―」としましたが、新しい生活様式と言われる厳しい時代を生き抜くために、信頼を得て協力をいただける施設となるべく対策を真剣に検討いただきたいと思います。

今も来ていただいている通所や放課後等デイサービス、療育教室などの皆さんとその保護者の方々へのサービスの充実に止まらず、在宅の障害児者への支援提供に、当施設の持つノウハウや人材の提供を開拓していく姿勢を持って、取り組む計画づくりの年にしていただきたいと思います。

幸い障害児者支援サービス報酬の改定は前向きにされることとなつて国会審議に付されまして、こうした国の姿勢を背景として、事業を行う施設が社会に共感を得られる仕事ぶりを見せることこそ喫緊に求められたいと思つております。

こうした思いを表題の「基礎固めの年に」込めさせていた

きました。新しい生活様式のひとつの理解として、社会の構成員の一人として、また、公益法人に課された責務としてできることを前向きに進める取組こそ、この様式に適う行動だと信じます。人口減少社会において求められる資源の適正化でもありと考えております。

新型コロナウイルス対策はまだまだ継続しますけれど、開発されるワクチンの普及に希望の光が見え始めております。

新しい年のはじめに当たり、「牛」のようにじっくり構え、しかし、確固として前進していく姿勢を貫いていただくようお願いすると共に、社会の皆さんから共感を戴けるよう前進していただきたいと思います。

また、当法人の姿勢に対しまして、この記事を読まれた皆様共感をよろしくお願いたします。

末尾になりましたが、職員や保護者の皆さん、この号を読まれる皆さんの御多幸と御健勝を祈念いたします。



# クリスマス会特集



## ◆ 第一病棟

今回は感染予防の為、サンタやスノーマン、トナカイが各居室を回る形でのクリスマス会となりました。職員が衣装替えをする様子から気持ちワクワクさせる利用者さん！居室でイルミネーションをクリスマスソングと一緒に楽しんで頂きました。キラキラする光をじっと見ておられる利用者さんのにこやかな表情が印象的で最後までじっと光を楽しんでおられました。

そして、サンタやトナカイ、スノーマンが登場し、「ボールキヤッチゲーム」を披露！不思議そうにする方や盛り上がる様子に「ボール!!」と言って参加される利用者さんもおられました。続いてのパプリカのダンスショー後には「プレゼントを捕まえろ!!」ゲームです。プレゼント風船がフワフワ飛んで来てはまた過ぎていく様子をゆったりと見つめる利用者さんの姿が見られました。最後に、ギターやキーボードの



伴奏でクリスマスソングを歌って終わりました。居室でのクリスマス会となりましたが、いつもと違う雰囲気から、普段寝ていることが多い利用者さんもしっかり起きておられました。利用者さんが笑顔になって下さり、クリスマス会を実施することができ良かったと思います。

(第一病棟 生活支援員 伊津由美)

## ◆ 第二病棟

第二病棟では令和2年12月16日にクリスマス会を行いました。

例年は入所者全員が集まり、歌を歌ったりプレゼントを渡したりなどイベントを行っていましたが、今年はコロナでそれができなくなってしまう、どのような方法で入所者に楽しんでもらえるかを考えるところから始まりました。

「少人数」で「距離」をとりながらという所で難しさはありましたが、多

目的ホール内に順路を設けてツリーなどの飾りつけや職員によるハンドベル演奏の映像を



見てもらうようにし、最後にプレゼントを渡しました。

当日は2、3人ずつで職員と一緒にホール内を見て回りました。クリスマス飾りをしつかりと見てその雰囲気を感じてもらえたように、ハンドベル演奏では笑顔が見られ映像に合わせ一緒にハンドベルを鳴らしてくれる方もおられました。当日体調不良等で参加できなかった方にはサンタの衣装を着て居室を回って写真撮影やハンドベル演奏を行い、クリスマスを感じてもらえるようにしました。

また、クリスマスメニューとしてジュースの注入やキーキバイキングを行い喜んでいただくことができました。

いつもと違う状況の中ではありましたが、クリスマス会を無事に実施でき、入所者の笑顔を見ることができよかったですと思います。

(第二病棟 看護師 猪口裕介)

## ◆ 第三病棟

今年のテーマは『プロジェクトオンマッピング(大画面での映像音楽)・イルミネーションを楽しむ!美味しいケーキを食べる!』ことでした。

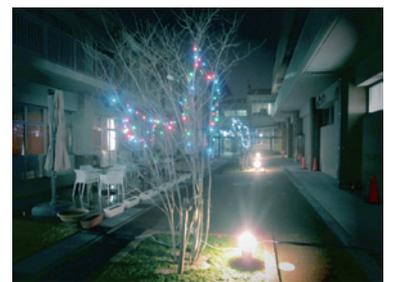
感染症対策を踏まえて、個々で楽しめるクリスマス会を計画しました。クリスマス会に先駆け、12月中旬より中庭にイルミネーション

を飾り、少しの時間ですが夕方からカーテンを開けて、キラキラ光る景色を見ながら夕食を食べる事ができました。また、活動で多目的室のクリスマスゾーンにも行き、クリスマスへの雰囲気を感じてきました。

クリスマス会当日の12月19日は、ホールの大きな壁に映像を映し、音楽をかけた各居室にはイルミネーションライトを回して病棟内にも飾り付けをしました。光が流れる天井や壁を不思議そうに見たり、音楽に合わせてニコニコしたりとそれぞれの楽しみ方をされていました。

午後は、電飾を飾ったランチルームと音楽や映像が流れる多目的室に分かれて、可愛いお皿にのせたケーキを一人ずつゆつくり味わいました。大きなイチゴや生クリームを目の前にすると、ケーキを指差して早く食べたい!ジュースもう一杯ほしい!と、良い顔をさ

れていたのが印象的でした。今年も、静かなる聖夜?一味違うクリスマス会になりました。(第三病棟 生活支援員 上嶋由実)



第五病棟

12月18日(金)に第5病棟クリスマス会を行いました。

感染症予防の為に詰所前で人工雪を触る、多目的室でクリスマススイルミネーション、家族室でサンタクロースと記念撮影、と少人数で順番に回ってもらえるように進めていきました。

人工雪コーナーでは、詰所前に集まってもらいクリスマススの曲を聴きながら人工雪を順番に触って貰いました。触ると冷たかったよ



うで少しびびりして手を引っ込めている様子や自分から触り「ほら雪だよ」「温かい」と職員に教えてくれている利用者の方も見られました。

多目的室のクリスマススイルミネーションでは、暗い部屋の電飾の光に興味を持って見られていました。

サンタクロースとの記念撮影では、順番に撮影してもらおうと笑顔で撮影されている方や周りを気にしながら撮影してもらっている様子も見られました。

最後に詰所前に代表で9人の方にサンタクロースから順番にプレゼント

トを受け取ってもらいました。プレゼントを受け取り嬉しそうな様子で見られました。サンタクロースからももらったプレゼントは活動などで楽しみながら使用したいと思っています。体調面などで居室から出られない利用者の方には、サンタクロースが居室まで行き一緒に記念撮影をしました。嬉しそうな様子や穏やかな様子の中でクリスマススの雰囲気を楽しんでもらう事が出来たと思っています。

(第五病棟 生活支援員 吉田 望)

はなのき通所

通所のミニクリスマス会を12月14日に開催しました。

今年度はコロナ対策に追われる一年となり、通所では日常の活動なども「密」にならないよう注意をしながら実施してきました。例年通所のクリスマス会は保護者を交えての盛大な行事となっておりますが、今年はそれも難しく、また、声を出したり、歌ったりも難しいのでどのようにしたら利用者さんに楽しんでもらえるかとても悩み、みんなで意見を出し合い、集会室の広いスペースを使って、換気や利用者同士の間隔もとりながら安全に出来る事を一番に考え実施しました。

オープニングはトーンチャイムを使ってクリスマススの曲を聞いてもら

い、続けてマリンバ等の演奏をしました。最初うつむいていた利用者さんも音楽が耳に入ってくると顔を上げ、笑顔で聞いておられました。



続いて劇は『はなたれ小僧様』をナレーションの語りと演者の無言劇でお話を進めました。劇の衣装を身に纏った演者が出てくると大笑いしている利用者もおられ、楽しんでおられる様子がみられました。そして、パプリカダンスをみんなと一緒に踊り、今年一年を振り返った動画を観てもらいました。

今年のクリスマス会では皆さん集中して聞いておられ、楽しく一年を締めくくれ、感染症対策をしっかりととして、これからも安全で快適な生活介護を提供できたらと思っています。

(通所係 生活支援員 青山博章)

児童発達支援センター

おひさままでは、毎年いろいろなクリスマス会のイベントを行っています。ただ、今年度は新型コロナウイルス感染症予防対策のため、例年のようにできません。それでも、子どもたちに、楽しいクリスマス気

分を味わってもらおうべく、規模は小さく、密は避けながら、職員が工夫を凝らし、療育室の前にクリスマスツリーを飾ったり、クリスマス用の飾り作りやおやつを入れる袋作りなどにみんなで取り組んだりしました。サンタクロースが現れたクリスマスも・・・!!



自分のクラスに現れたサンタクロースにびびりして固まる子、「サンタさんだー」とテンションがあがる子色々でした。年齢の小さな子どもさんの多いさくらんぼクラスのクリスマス製作は、職員と一緒に手形をぺたぺたしてクリスマスツリーを描きました。年度初めよりも動きが活発になった子どもたちは、やりたーい!! 気持ちがたくさん育ってきています。

ココはなのきは、小学生グループのため、特にクリスマスイベントは行いませんが、活動にも慣れてきて、しっかり身体を動かしたり、課題に取り組んだりとお兄さんお姉さんの姿がみられるようになっていきます。

(児童発達支援センター おひさま 高橋良子)

# 掲示板

## 新型コロナウイルス感染症 緊急包括支援事業交付金に よる購入品について

国において成立した令和2年度の第二次補正予算を受け、新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業交付金が創設されました。その交付金によって以下の物品・設備の整備をおこないましたのでお知らせします。

- タブレット型サーマルカメラ（自動体温計測器）
- ヘパフィルター付き高機能空気清浄機・加湿機能つき大型空気清浄除菌脱臭装置
- 心電図装置
- 自動血球計数CRP測定装置
- ナノミスト機械浴槽
- ナノミストヘッドスパ・第2病棟観察室 個室工事・地域交流等トイレ非接触センサーライト工事
- 手洗自動水洗設置（6ヶ所）
- はなのき通所 床・畳衛生改修工事
- 消耗品（マスク・手袋・防護服等）
- 軽自動車新規リース料

これらの物品を活用し、これからは新型コロナウイルス感染症対策に取り組んで参ります。



# 花ノ木の動き

（令和二年十一月一日～令和二年十二月三十一日）

- 11/4 所内研修「虐待及び身体拘束防止」
- 5 停電時対応訓練
- 6 地域美化活動
- 12 所内研修「感染対策及び知識」
- 20 明治国際医療大学 見学・実習（30）
- 22 第3回理事会
- 20 京都医療福祉専門学校 見学・実習（12/6）
- 12/3 所内研修「健康講座」
- 3 医療管理棟・通園棟・児童発達支援センター 防災訓練
- 9 所内研修「防犯対策」
- 10 明治国際医療大学 看護実習（11）
- 14 はなのき通所クリスマスマス会
- 16 第二病棟クリスマスマス会
- 18 第五病棟クリスマスマス会
- 19 第三病棟クリスマスマス会
- 20 第一病棟クリスマスマス会
- 28 仕事納め



# ありがとうございました

寄付・寄贈（敬称略）

◎寄贈  
塩野忠雄 マスク 2,500枚

## 編集後記

涼しくなったかと思えば急に寒くなり、あつという間に冬がやってきました。

コロナ禍が始まってから、早くも1年が経とうとしていきます。分からないこともまだまだ多く、対応の「正解」がはっきり見えない中で、日本という国柄か、マスクも消毒も検温も世の中に定着した感があります。幸いにも身近には感染者、濃厚接触者が出ていない状況ですが、「明日はわが身」最低限、気をつけるべきことはきちんと気をつけていきたいと思えます。

イベントもほとんど行われなご時世ですが、通勤経路の嵯峨嵐山駅周辺で、今年も「花灯路」が行われていました。要は周辺の道のライトアップなのですが、渡月橋周辺は、「冬の夜、屋外川べり」・・・極寒です。私は行ったことがありませんが、例年まあまあの人出であったと記憶しています。竹林周辺は綺麗かもしれないけれど、あまりの寒さにリピーターはいないのではないだろうか・・・と毎年思っていました。

年末年始は、「ステイホーム」で、普段できない家のことを色々やろうと思っています。皆様もご自愛下さい。

（編集委員 高橋良子）